令和元年度第1回芽室町総合計画審議会・第1回専門部会　議事録

令和元年7月29日（月）18:30～19:45

めむろーど2階セミナーホール

審議会出席委員（15名）

貫田会長、谷口副会長、廣江副会長、岡田委員、小椋委員、小池委員、小林委員、佐藤(得)委員、佐藤(正)委員、白銀委員、鈴木(修)委員、鈴木(智)委員、千葉委員、鳥本委員、松山委員

審議会欠席委員（1名）

早苗委員

専門部会出席委員（16名）

飯島委員、惠田委員、片桐委員、木村委員、児玉委員、坂本委員、櫻井委員、佐藤(渉)委員、

嶋野委員、髙橋(仁)委員、髙橋(好)委員、谷口委員、西村委員、野澤委員、山田委員

専門部会欠席委員（1名）

黒田委員

事務局

佐野副町長、石田企画財政課長、中村係長、餌取主事、上田主事

開会

佐野副町長挨拶

委嘱状交付

石田課長：それでは、総合計画及び施策評価について事務局から説明する。

事務局：資料1、2に基づき説明。

石田課長：ただ今の説明について質問等はないか。

委員：（質問なし）

石田課長：続いて議案の５番、会長及び副会長の選出に入りたい。資料３ページをご覧いただきたい。芽室町総合計画審議会条例では会長１名、副会長２名、選出は委員の互選となっている。委員の皆さんから推薦はないか。

委員：さまざまな委員をやられ、広い視野を持っている貫田正博委員を会長に、谷口和德委員と廣江英幸委員を副会長に推薦する。

石田課長：ただ今委員から推薦があったが、いかがか。

委員：（異議なし）

石田課長：では、会長は貫田正博委員、副会長は谷口和德委員、廣江英幸委員にお願いする。

　　　　　なお、専門部会の部会長及びグループ長については、８月５日の合同専門部会で

決定させていただく。

　　　　　ここで、貫田会長から挨拶をお願いしたい。

貫田会長：会長になりました貫田です。よろしくお願いします。

石田課長：条例第５条３より、会長が会議の議長を務めることとなっておりますので、ここからの進行は貫田会長にお願いする。

貫田会長：それでは議案６番、特別講話に移る。本日は、北海道大学教授の山崎幹根様にお越しいただいている。山崎様、よろしくお願いします。

**山崎講師　講話**

総合計画の評価について、計画を作っても作りっぱなしで評価は数年に１度しか行わないという自治体も多い中、毎年審議会を開いて点検・評価をしているということは素晴らしい。評価の仕方については絶対的な評価の方法が確立しているわけではないため、ベストな方法はなくベターな方法で、みんなで議論することが大切である。住民参加型のこういった会議を普段から行っていると、いつかまちの方向性を左右する局面に直面した時にも、きちんと町民の意見を聞いて進めることができる。まちづくりに関する住民意識調査も毎年やっている。芽室町の住民意識調査の様式で良いところは、自由意見を記入できることである。高い住民満足度、減少、未達成要因の背景を考えることが重要である。

事務局の説明でもあったように、計画の評価はPDCAと呼ばれる手法で行うが、最初に言ったように他の自治体を見てみるとPDだけで終わることが多い。重要なのは、PDを行ったことによって何がもたらされるのかということである。町民の満足度を高めるためにやっていることはわかると思うが、何をやっているのか、どんなことをやっているのか、マネジメントシートを見て疑問があればどんどん質問して突っ込んでいってほしい。

評価をするときのポイントは、時系列比較、類似自治体や近隣自治体と比べることである。また、要因を考えることが大事。なぜ指標が下がったのか、なぜ上がったのか、目標値が達成されているか、なぜ未達成なのか、「その要因は何か」を考えることが重要である。芽室町での理由だけではなく、国全体の政策や社会的変動なども関係がある。要因を考えるうえで、考慮すべき社会経済的な要因と変動はあるか、住民の側から考慮すべき点があるかを併せて考える必要がある。

評価をするときのポイントは、時系列比較、類似自治体や近隣自治体と比べるということ。また、①普通の町民（生活者）の視点、②民間（納税者）の視点、③自治の担い手としての視点の３つの視点を持つことが重要。気になることはどんどん質問して、色んな疑問・問題点を洗い出していってほしい。

貫田会長：山崎先生、ありがとうございました。ただいまの講話について質問のある方は。

委員：PDCAサイクルの話で、内部評価をしてから外部評価をするのでは、評価が終わってその意見を実際に行政に反映できるのが秋ぐらいになってしまう。年度単位でみると４月から年度が始まるうえで遅いように感じる。行政に反映するタイミングが早ければ早いほど良いと思うが、先生はどのようにお考えか。

山崎講師：皆さんに評価していただいた意見は、次年度の予算に反映するものである。ただ、予算を伴わないもので、即効性のあるものは次の日からでも反映できることもあるため、それは都度反映させていければ良い。

石田課長：前年度の決算は５月末に出納閉鎖をして確定するため、そこから内部評価をすると審議会の開催は早くても７月以降になってしまう。基本的には次年度の予算に反映するものであるが、すぐできるものはすぐに反映する。

委員：マネジメントシートについて、昨年の専門部会でも色々な議論があり、ABCDEを決めなければいけないのは難しい。内部評価でABCDEが決められており、どの状態でAなのか、AとBの違いがわからない。もし昨年、庁内評価を見ないで外部評価をすると同じ結果になったかどうかは分からない。ABCDEにこだわりすぎると、本来の「よりよくするために」という趣旨から外れてしまうのではないか。

山崎講師：ABCDEの評価より、意見を伝えることが重要である。AとBの違いがわからないということであれば、あまり複雑にするのは良くないとは思うが、C＋やC－をつくるというやり方もある。ただ、最終的な評価より、議論してどういった意見を内部にぶつけるかというところが重要である。

委員：昨年参加しての意見だが、普通の町民としての率直な意見を言おうとは思うのだが、発言をすると議事録に名前が残る。会議では話し言葉で話しているが、それを文字におこすとキツい言い方に感じてしまう。議事録に発言者の記名は必要なのか。名前が残ると思うと、言いたいことがあっても躊躇してしまう人もいるのではないか。内容確認もできないし、無記名にすることは可能なのか。

石田課長：スケジュール的に委員の皆さんに内容確認をしていただくことは難しい。一般的に審議会では名前を公表するのが一般的であるが、それを気にして発言や意見が出て来なくなるようであれば、無記名でも構わない。

委員：私は記名の方が良いと思う。素晴らしい意見だと思っている。成果指標について、数

字の裏にある実態が我々委員には見えてこない。比較をしなければいけないのは非常に難しいが、裏にあるものはなんだというところが知りたい。そこのところ先生はどうお考えか。

山崎講師：まさしくその通りで、形式的に良い悪いを決めるだけであれば、わざわざ審議会を開く必要はない。議論しながら、わからないことは質問して理解を深めるということが、評価をしていくというところで重要なことである。

貫田会長：他に質問等はないか。

委員：（質問なし）

貫田会長：それでは「その他」として、事務局から説明をお願いする。

事務局：資料3、資料４に基づいて、今後のスケジュールと芽室町総合計画の策定と運用に

関する条例等について説明。

貫田会長：ただいまの説明について、または全体を通して質問等はないか。

委員：（質問なし）

貫田会長：ではここで、事務局の紹介をしていなかったので、事務局から１人ずつ挨拶をお願いしたい。

事務局：１人ずつ挨拶

貫田会長：次に、副会長に選出された２人から挨拶をお願いしたい。

谷口副会長、廣江副会長：一言ずつ挨拶

貫田会長：質問がなければ、以上で閉会とする。お疲れ様でした。

19:45　閉会